

水質調査結果から

きれいな川、まもりたい

町内を流れる五行川、野元川、大川の3つの河川については、ロマンの湯横の五行橋をはじめとする12地点で水質調査を行っています。

水質調査結果から

平成17年度の調査結果によると、健康項目（人の健康の保護に関する環境基準・カドミウム、鉛等の有害物質の調査）については、すべての項目で不検出でした。

環境項目（生活環境の保全に関する環境基準・PH、BODなど）は、環境基準適合率84・6%で、前年度に比べて50ポイント上昇しています。項目別に見ると、PHと大腸菌群数の適合率が上昇していますが、大腸菌群数については夏季を中心に、まだまだ基準値を上回ることが多く見

れます。大腸菌は37度前後でもっとも繁殖しやすく、一般に気温、水温の上昇する春から夏にかけて数値が高くなる傾向があります。また、雨の多い（水量の多い）時期に数値が高いことから、生活雑排水の流入に起因するものではないと言えます。生活雑排水に起因するものであれば、水量の少ない冬の時期に高くなると考えられます。このほか、雨の多い時期に土壌から大腸菌が流出することも原因のひとつにあげられます。

項目別環境基準適合状況

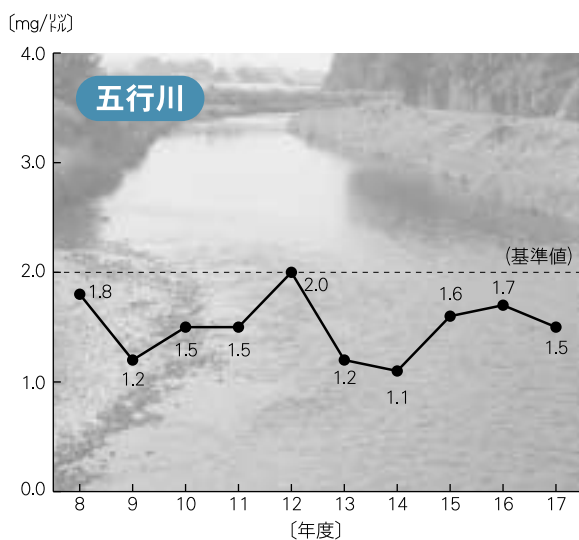
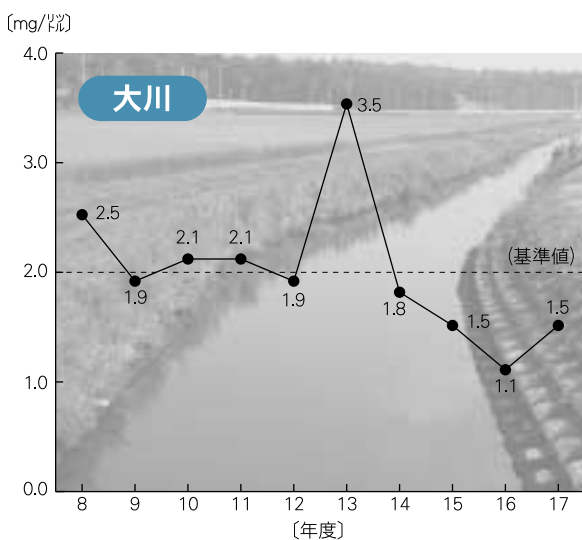
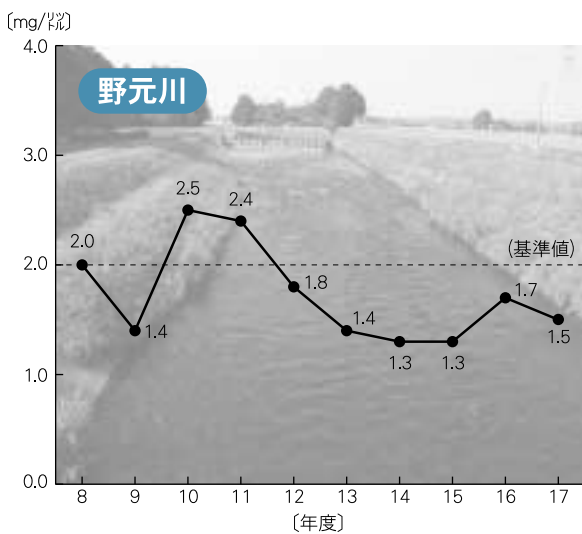
河川名	PH (6.5~8.5)		BOD (2mg/L以下)		SS (25mg/L以下)		DO (7.5mg/L以上)		大腸菌群数 (1000NPN/100ml以下)		計	
	適合数/調査数	%	適合数/調査数	%	適合数/調査数	%	適合数/調査数	%	適合数/調査数	%	適合数/調査数	%
五行川	18/18	100	18/18	100	18/18	100	18/18	100	8/18	44.4	80/90	88.9
野元川	18/18	100	18/18	100	18/18	100	18/18	100	6/18	33.3	78/90	86.7
大川	12/12	100	9/12	75.0	12/12	100	12/12	100	0/12	0.0	45/60	75.0
計	48/48	100	45/48	93.8	48/48	100	48/48	100	14/48	29.2	203/240	84.6
前年度	41/46	89.1	44/46	95.7	46/46	100	46/46	100	7/46	15.2	183/230	79.6

BOD値の経年変化

河川の汚れ具合をBOD値の経年変化で見ると、平成10年から14年にかけて基準値(2.0)を超える河川がありました。ここ4年間は3河川とも基準値以内となっています。

BOD(生物化学的酸素要求量)

水中の有機物が、微生物により酸化分解される時(汚水が微生物により浄化される時)に消費される酸素量のこと。この数値が大きいほど、水の汚れは激しいといえる。



河川の汚れ具合の経年変化を、有機汚濁の代表的指標であるBOD値で見ると、3河川とも環境基準値(2.0mg/L)以内に収まっています。この10年間で、五行、東水沼、社后、八ツ木、下高中部地区において農業集落排水処理施設が整備されたことや、合併処理浄化槽の普及により生活雑排水の流入が少なくなったことが要因と考えられます。

一方で、平成10年、11年度の野元川や平成13年度の大川では、季節や調査地点によってBOD値が大きく上昇しました。大腸菌群数や全窒素の数値も同様に高い値になりました。農業集落排水処理施設が整備されている地区での調査結果から、農地に散布された家畜糞尿等が雨水とともに流出したことに起因すると考えられます。それにより、年平均値が環境基準値を超える結果となりました。

河川の清掃

ごみを川に流してしまう慣習は昔からあったようですが、このごみの不法投棄が河川の景観を損ねると同時に、水質を悪化させる原因のひとつになっています。

水質調査時には、調査箇所周辺のポイ捨てごみの清掃を行っています。このほか、冬季に河川一斉清掃を実施しています。

きれいな川を維持しよう

五行川、野元川、大川とも、夏期の大腸菌群数の上昇はありますが、ほぼ安定した水質が保たれています。

現在の水質を維持していくために私たちができることは、川にごみを捨てないこと、また、ごみを捨てられないよう、きれいな環境を保つことです。ひとりひとりの心がけで、きれいな川を守っていきましょう。

環境対策課

028(677)6041